

山口県における 2015 年の スギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告 : 山口県医師会理事 沖中 芳彦]

2014 年の秋におけるスギ雄花の着き具合は、前年と比べると同程度かやや少ないように思われ、今シーズンは県内測定施設の平均値として、前年の 2,530 個 /cm² に対し、約 2,400 個 /cm² というスギ花粉総数を予測しました。

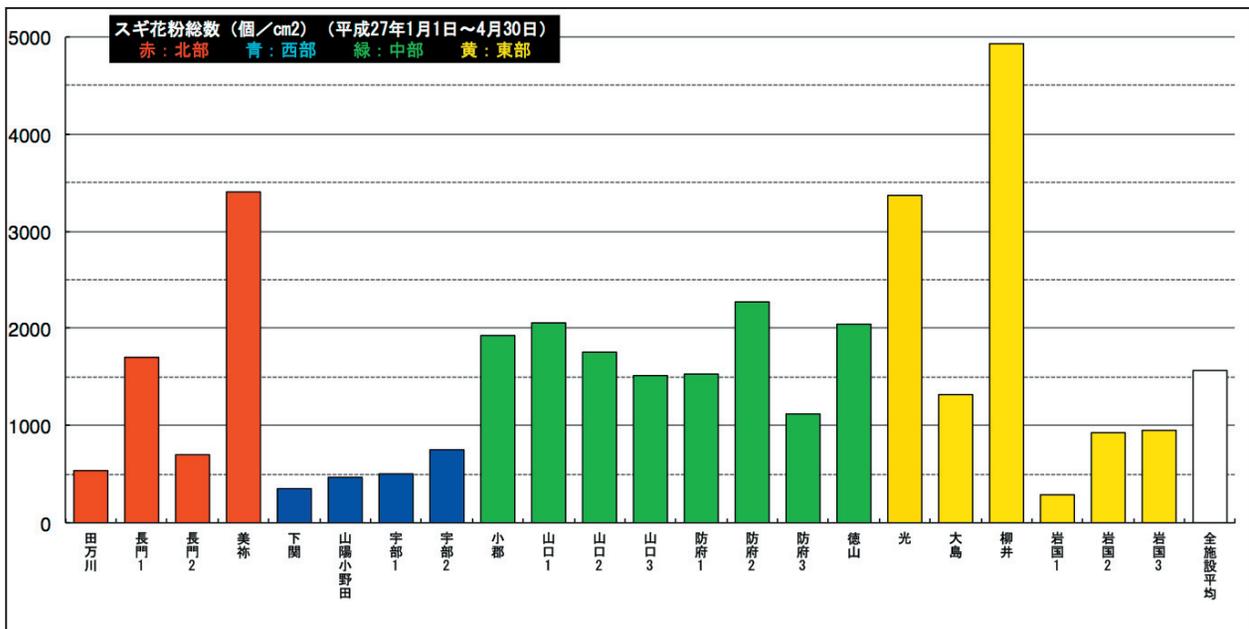
今シーズンは数日おきに繰り返し雨がよく降ったという印象があります。実際、特にスギ花粉飛散の最盛期である 2 月下旬から 3 月上旬にかけて、西日本太平洋側では平年に比し降水量が多く、日照時間が少なかったようです（気象庁の報道発表資料 <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko1503.pdf> より）。そのような気象条件も影響したと思われるが、花粉飛散総数の実測値は、予測の約 65% の 1,570 個 /cm² と平年を下回る数となりました。ちなみに、2007 年のシーズンはスギの飛散期にほとんど雨が降らず、2 月でも最高気温が 18℃ を超える日もあるなど暖冬で、1,600 個の予測が実測値 2,400 個と、本年

と全く逆の結果となりました。

2014 年の夏は降水量が多く、日照時間の少ない日々が続きました。岩国市や広島市では豪雨災害も発生しました。また、直近 4 年間のスギ総数をみると、表年（1 年おきの花粉の多い年）である 2011 年と 2013 年は過去 2 番目と 3 番目の数で、2012 年と 2014 年も裏年としては過去最多と 2 番目の多さでした。ここ数年のスギは、よく働いたのだと思います。今シーズンはその反動で、観察木以外の多くの木において、雄花の数自体が比較的少なかった可能性も否定できません。

地区別の飛散をみると、例年花粉の多い長門で極端に少なく、もともと少ない西部でさらに少なくなっていました。筆者の測定点（西部地区）におけるスギ花粉総数は 500 個でしたが、これは 2001 年に当地で測定を開始して以来、2 番目に少ない数となります。最少は 2004 年の 200 個

図 1 測定点別スギ総数 (2015 年)



でその年の全測定機関の平均は 260 個でした。3 番目は 2010 年の 655 個で、その年の全測定機関の平均値は 564 個でしたので、本年の平均飛

散総数に対する西部地区の飛散割合が如何に小さかったかがわかります (図 1)。

なお、今シーズンのスギ花粉飛散開始日は 2

図 2 測定点別ヒノキ総数 (2015 年)

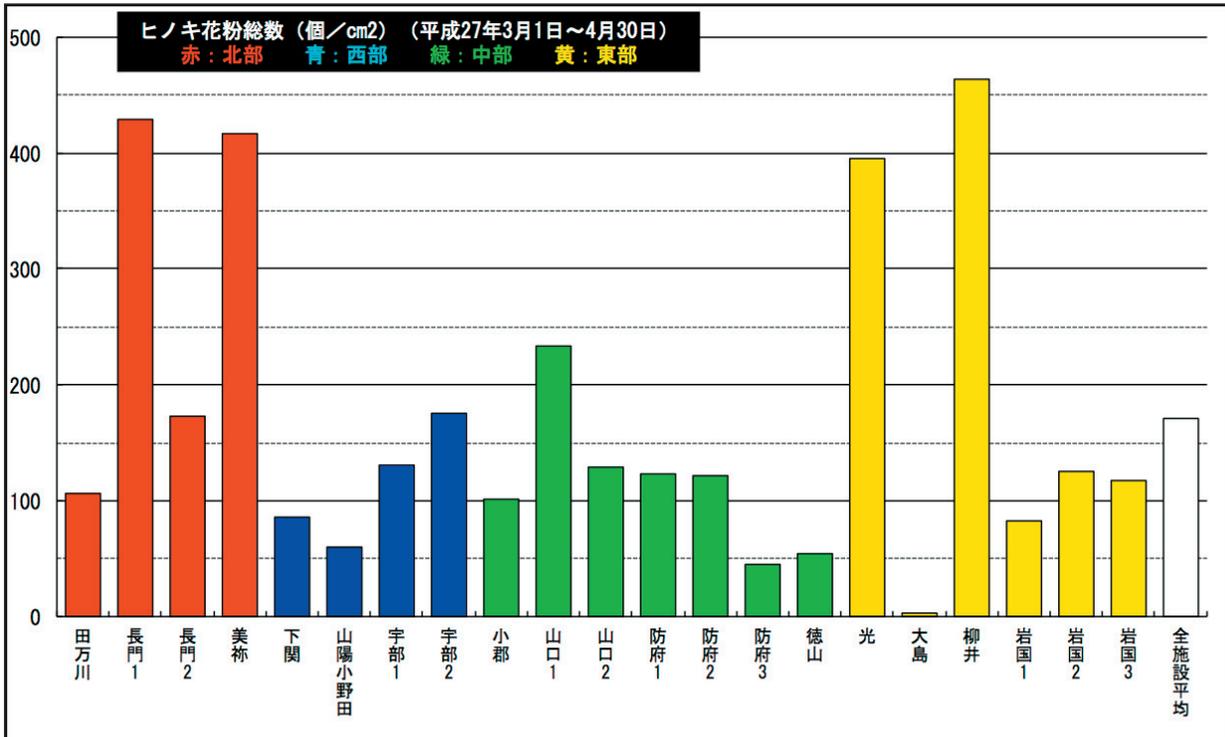


図 3 年別平均スギ・ヒノキ花粉総数 (2015 年)

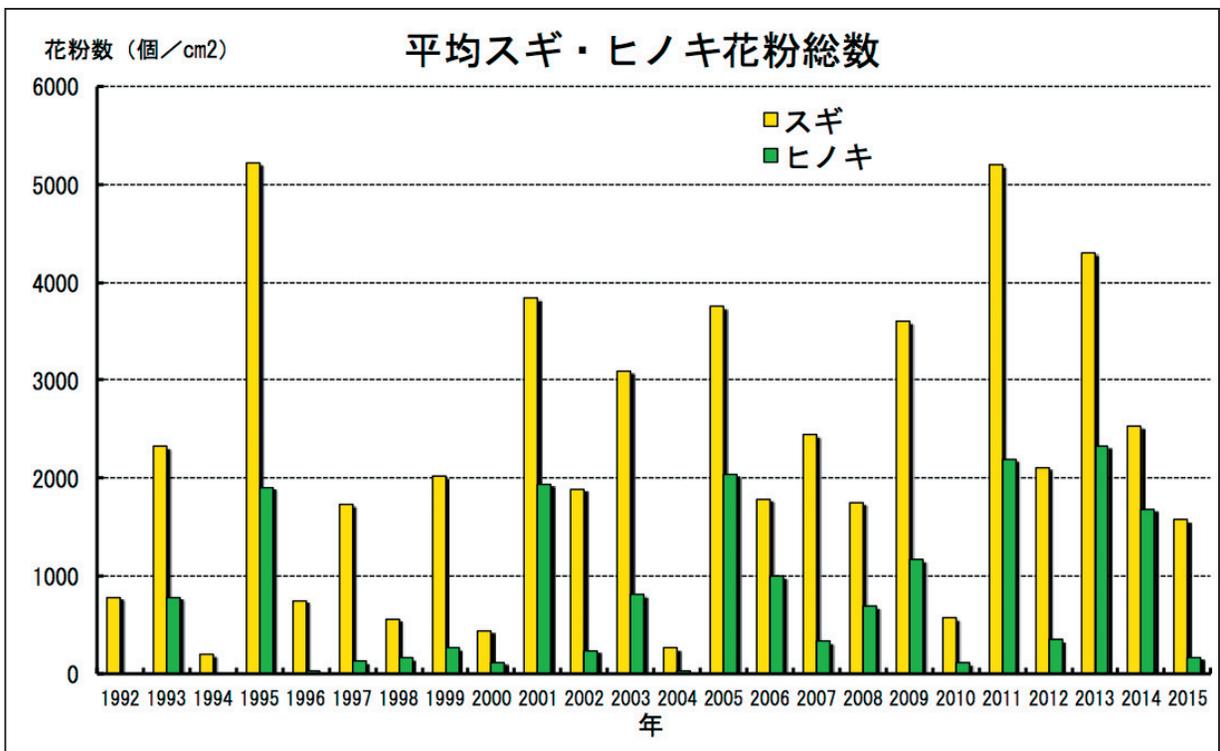
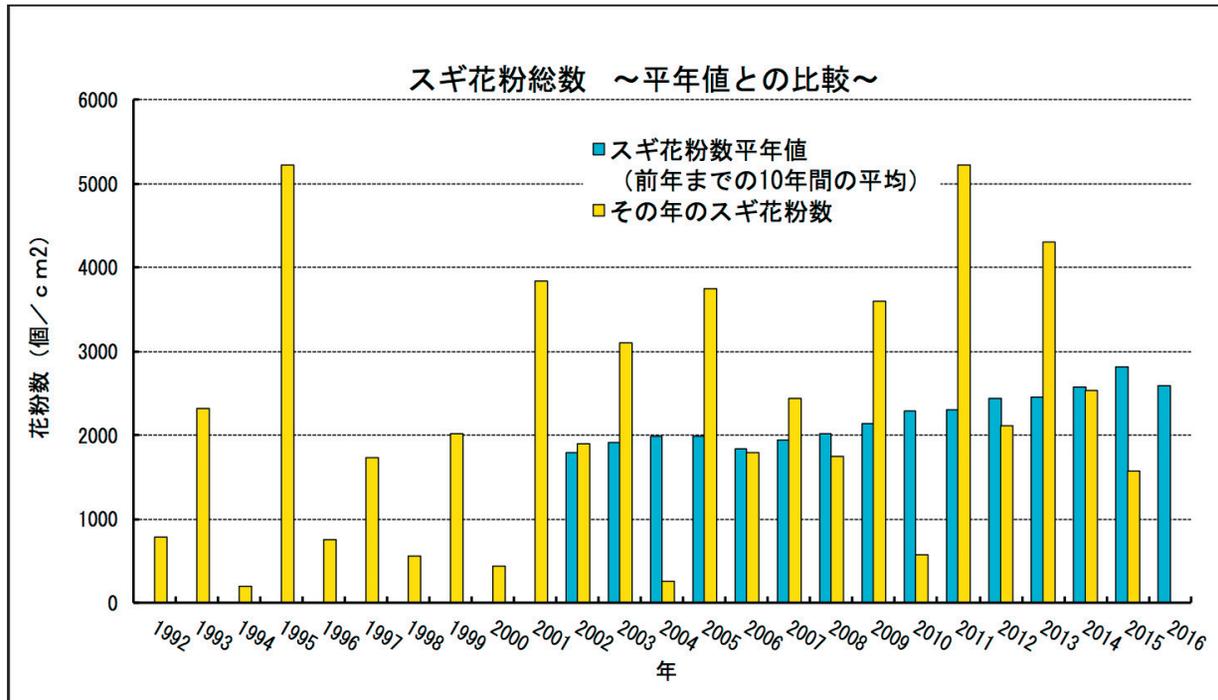


図 4 スギ花粉総数と平年値



月 3 日で、最多飛散日は 2 月 26 日でした。

一方、ヒノキの昨年秋の花芽の着き具合は 1,685 個/cm² であった前年よりも明らかに少ないように思われました。ヒノキは数の予測が難しいため、漠然と「昨年より少なくなる」という程度の予測でしたが、実際の飛散は 4 月 30 日までで約 170 個/cm² の平均総数であり、前年の約 10 分の 1 という非常に少ない捕集数となりました(図 2)。ちなみに最多飛散日は 4 月 2 日でした。

2015 年のシーズンを迎える前のスギ花粉総数の平年値(直近 10 年間の平均)は 2,800 個/cm²

でした。本年はスギ花粉飛散の表年でしたが、表年で初めて前年(裏年)を下回り(図 3)、さらに平年値をも下回りました(図 4)。またスギ花粉総数はこれまで前年と比べて交互に多い、少ないを繰り返してきましたが、2 年連続して前年を下回りました。これらは今シーズンのスギ雄花の着き具合から予測されていたことではありますが(県医師会報 2015 年新年号掲載「2015 年のスギ・ヒノキ花粉数の予測」参照)、表年と裏年のパターンが崩れた形となり、来シーズンの予測がますます難しくなりました。